

不撓不屈

普天間中学校だより
第11号
令和4年3月15日

教育目標

平凡を非凡に努め、不撓不屈の精神で何事にも挑戦し、自己実現に向かう生徒の育成

夢を叶える「プラス思考」

「誇り高さ未来へ翔ばたけ! 74期生」

小鳥のさえずりやあたたかい日差しに春の訪れを感じる頃となりました。去る3月12日(土)、「翔ばたけ! 誇り高さ未来へ My story」のテーマの下、第74回卒業式が開催されました。新型コロナウイルス感染症対策の影響で、プログラムの変更や時間短縮、来賓・在校生の入場制限などを余儀なくされましたが、卒業生や保護者の皆様のご理解とご協力のおかげで、厳粛な中にも心温まる感動的な卒業式となりました。ありがとうございました。以下に校長式辞を紹介したいと思います。

(前略) 皆さんは、第74期の卒業生として、普天間中学校の歴史に確かな足跡を残してくれました。残念ながら、中学校生活の半分以上は、新型コロナウイルス感染症との戦いの日々でした。たくさん制限がある中でしたが、文化活動やスポーツ活動において、素晴らしい功績をあげました。また、男女の仲が良く、とても優しくて



気品がありました。反面、やるべきはやるバイタリテイにあふれていました。特に、私が印象に残っているのは、2年生の冬に開催した「十八番大会」です。漫才やダンス、空手の演武、琉球舞踊、クラスの出し物など、自分たちで企画・運営し、学年全員が一体となって、思いっきり楽しんでいたので、鮮明に覚えています。また、

3年に1度しかない体育祭においては、一人ひとりが熱い思いを持って、仲間とともに一生懸命取り組み、その姿は眩しく輝いていました。全男子で行った空手や全女子のダンス、全校応援の練習では、より良いものに仕上げようと、舞台上で呼びかける姿に最上級生としてのプライドを感じました。さらに、音楽発表会でも、学級の団結力を見せ、昼休みや放課後等の限られた時間、ペランダや中庭などの限られた場所を最大限に活用し、素晴らしい合唱を作り上げてくれました。このように、74期生の皆さんは、行事や部活動、生徒会活動など、様々な場面で後輩をリードし、普天間中学校ならではの穏やかでアットホームな校風「普中ブランド」を大切に育ててくれました。そして、この厳しいコロナ禍でも、めげずに、全員が前向きに学校生活を送ってくれたことを、心からうれしく思います。みなさん、本当にありがとうございます。

ございました。今、世界中が新型コロナウイルスに翻弄されています。しかし、ピンチはチャンスです。リモート授業やICT端末の活用など、見方を変えれば、今回の出来事は、新しい時代への変革を加速するものかもしれません。

結びに、皆さんの旅立ちに際し、メッセージを贈ります。それは、「夢を叶えるための考えの持ち方」についてです。私はテニスが好きで、週に2回ほどやっています。外の競技なので強風の日もあります。その時、「嫌な風だな。打ったら風に乗ってアウトしてしまおう。」とマイナスのイメージをもちのか、それとも、「よし、この追い風を利用すると速いボールが打てるぞ!」と、プラスに捉えるのか、同じ状況下でも、考え方によって全く違う結果になります。これが「発想の転換とプラス思考」です。

それから、もう一つ。「口」と言う字を書きます。その右横に「+ (プラス)」、その下に「- (マイナス)」と書くと「吐」という字になります。弱音を吐く、溜息を吐く、捨て台詞を吐く... 私たちの口からは、マイナスの言葉が出ています。マイナスの言葉は、「マイナスの発想」につながります。

でも、マイナスの言葉を口から出さないように心掛ける。する

吐く

と、マイナスの文字は消えて、口の横には、プラスの文字だけが残ります。口にプラスで、「吐」という字になります。手のひらに一度書いて確かめてみてください。夢はあなたを決して見放しません。夢を見放すとすれば、それは自分自身です。この先、夢をあきらめようと思った時、手のひらに「吐」という字を書いて、「プラスの言葉」を探してみてください。きっと、希望にあふれた前向きの言葉が見つかるはずですよ。

これから普天間中学校を巣立ち、進学や就職など、新たな環境で様々な困難が待ち構えていると思います。が、「発想の転換とプラス思考」そして、「プラスの言葉を使い続ける」ことで、ピンチをチャンスに変え、自分の人生を大きく切り開いてください。皆さん一人一人の「夢の実現」を祈念し、式辞といたします。

1年間ありがとうございました。令和3年度も、1年間をとおして新型コロナウイルスの感染拡大により、授業や学校行事、部活動等が多大な影響を受けた年となりました。しかし、生徒をはじめ、各ご家庭や地域の皆様の温かいご理解をいただき、感染を防ぎながらも大きな支障なく教育活動を進めることができました。これも、普天間中学校が今まで創り上げてきた保護者や地域との信頼関係の賜物と改めて強く感じています。本当にありがとうございました。